

豊橋の豊かさを未来へ継承するために

<http://toyo.pbeins.net/>

3月定例市議会の概要

豊橋市議会三月定例会は一日から二十六日まで開催され、平成二十二年一度一般会計予算など六十二の議案が審議されました。さらに最終日には議員定数削減(四名減)など二件の条例案が追加され、それぞれ原案どおり可決しました。

今回可決された平成二十二年度一般会計予算の総額は、一、二六億九千万円。「あらゆる分野で聖域なく見直しを行い(中略)削減を図った」とされるが、前年度予算に比べ五・

四%増となっています。増加の主な要因は、子ども手当の支給開始。本年度は初年度であり十カ月分のみ、また一人あたり月額一万三千円であるものの、このための予算は約七二億円となりました。次年度はこの二・四倍となることが予想されます。財源は国費とは言え大変な金額です。歳入では、市税収入が前年比四・八%の減。家庭で言えば貯金の取り崩しにあたる財政調整基金繰入金は、前年同額の三九億円。赤字国債に相当する臨時財政対策債は、前年比五三・五%増の六十億円となっています。

その他、特別会計は競輪事業において、東西王座戦の開催による売り上げ増などにより、前年比一一・九%増の七六七億円。企業会計は、病院事業で七対一看護の実現による医療収益の増加などにより、前年比一・〇%増の四八五億円となっています。

また、後進に道を譲りたいと三月末での辞任を申し出た加藤三男副市長の後任として、総務部長の堀内一孝氏を選任することに同意する議案も可決されました。

以下に豊田一雄の予算特別委員会での主な質疑の要旨を記します。

「進出企業の振興策について」

【質問】佐原市長はシティブロモーションとして企業誘致活動を活発に行うことと合わせて、既存立地企業ももっと積極的にフォローしていくと繰り返し言われている。市内に立地している企業を守るため、また、他地域から移転してくる企業が現れるように、進出企業の振興策をどのように強化・充実していくお考えか？

【答弁】既存の事業所用地へ増設をした場合にも奨励金の対象となるよう、平成二十年度に条例改正を

議会改革で目指すもの



豊橋市議会は3月の定例会で、議員定数を次回の選挙以降現在の40名から36名に減らすことを決めました。議員定数削減の主な理由は、市の財政がひっ迫していることから、議会もコストを削減しなければならないというものでした。

行政のあるべき姿として、常に最小のコストを目指すことは大切なこと

です。しかし、それはその仕事の目的を達成できるという前提あつてのことです。市長部局と並ぶ両輪の一つとして、議会には、市民の声の代弁者として果たさなければならない重要な役割があります。コスト削減した結果、その役割を十分果たせなくなるとしたら大変な問題です。今回は、その辺りの確認とか議員数が減ることを補う策など、全く議論されないままの唐突な議員定数削減条例案の提案であり、私は賛成することができませんでした。

今後、豊橋市議会をもっと活発な議会にしていくためには、各議員の活動の質を高めていくことが重要です。その方法は、本会議や委員会などで、どの議員がどんな発言をしているのかを、もっと積極的に市民に伝えることです。また、プロの議員としてそれぞれ専門性を高めていく方策の確立も大切です。このように議員をもっとしっかり働かせる環境づくりという意味での、議会改革を進めていかなければならないと考えています。(豊田一雄)



行った。今後も状況に適応した制度とするよう個別企業訪問を頻繁に行い、状況の把握に努めるとともに、市から各地域や企業に出向き、優遇制度などについての説明会を開催するなど、各種補助制度を利用していただくよう積極的な働きかけに取り組みしていきたいと考えている。

「総合動植物公園のあり方について」

【質問】総合動植物公園への一般会計からの繰入金(税金投入)は、ここ数年一〇億円以

上が続いている。しつかり時代環境と市民の期待を見極め、的確な理念とビジョン

の確立が必要なのではないか？

【答弁】動物園ブームが起きている中で、動物園相互の優劣が明確になってきている。当総合動植物公園でも、全国

にアピールする豊橋市のシティプロモーションの重要な観光資源といった観点からも、各ゾーンについて理念やビジョンを整理して、新たな整備に取り組み必要があると認識している。



【気候変動への適応について】

【質問】佐原市長は日本一の農業を指すと言われているが、農業は地球温暖化による気候変動の影響を最も受けやすい産業と言える。他市に先んじて、気候変動への適応策を確立すべきではないか？

【答弁】温暖化影響への適応策については国においても検討しており、地域としても取り組むべき課題であると認識している。今後の地球温暖化対策推進会議における課題の一つとして取り上げていきたいと考えている。

ている。

【外国人への生活情報について】

【質問】ポルトガル語版ホームページのリニューアルに生活情報等を充実とあるが、携帯メールにより、地震や台風などの予報、被害状況などを伝える、外国語版あんしん・防災ネット等の充実こそ喫緊の課題ではないか？

【答弁】正確な情報を確実に伝達する手段として、携帯電話メール発信は優れているので、ポルトガル語による情報提供について勉強していきたい。

【防災リーダーの養成について】

【質問】防災リーダー養成講座で、自主防災組織整備を一層推進するために、二十二年度に改善すべき課題と対応策について、認識を伺う。

【答弁】防災組織強化のための具体的な手法、事例等を学ぶ時間数が、足らなかつたと考えている。新年度には、カリキュラムを一部見直し、「自主防災組織の体制・運営・活性化」といった視点での講座を加え、防災リーダーが自主防災組織を強化し、地域防災力の向上が図れるように講座を進めていきたい。また、自主防災組織活動資機材等整備補助金で購入した資機材が、自主防災組織の充実・強化に寄与できるように、それらを活用した訓練が実施されるよう指導していきたい。

東三河環状線 牛川トンネルの見通し

県道東三河環状線は、豊橋市と豊川市の市街地外周部を取り巻く道路として、昭和46年に都市計画決定され、昭和47年には主要地方道として認定された道路です。豊橋市東部地域においては、赤岩口電停付近の混雑解消や東名高速豊川インターチェンジへのアクセス向上など、大きな期待が持たれてきました。しかし、飯村地区から多米地区までは既に供用がなされているものの、多米から牛川に通じる牛川トンネル(仮称)の建設が遅れており、その実現が待ち望まれているところです。このような中、平成21年度には牛川トンネルに関わる用地取得が積極的に行われ、概ね9割を超えるところま



牛川トンネル北側坑口予定地付近

で来ました。一方、昨年の政権交代による影響で、愛知県の道路関係予算が大幅に削減されてはいますが、平成22年度には、豊川市内の三上工区、白鳥工区と並んで、豊橋市内においては石巻・牛川工区(多米西町～石巻町)の事業が予定されています。まず、用地取得の推進、井戸への影響を調べる環境調査が行われます。これらの経過を見ながら、南北双方からのトンネル坑口工事が平成22年度末に発注される見通しとなっています。

また、このトンネル付近では、交通事故の危険を取り除くため、多米西町一丁目と二丁目を結ぶ道路が閉鎖されることが予想されており、昨年度は、校区自治会が中心となって信号交差点設置の要望を、公安委員会などに対して行っています。今後も地元として、牛川トンネルの早期実現に向けて、様々な要望活動を続けて行くことが大切になるものと思われます。

※「豊田一雄市政懇談会」を行います。皆さん、気軽にご参加ください。
日時:6月5日(土)19:00～
場所:東陽地区市民館
※月2回程度、メールマガジンを配信しています。ご希望の方は、下記ホームページでアドレス登録をお願いします。
<http://toyo.pbeins.net/mm.html>

豊橋みらいニュース

<http://www.geocities.jp/sigimirai/>

豊橋市議会の新会派「豊橋みらい」は、議会改革への想いの違いなどにより清志会から離脱したメンバーで、4月1日に発足しました。4月末現在、その構成議員数は7名となっています。執行部には、会長に坂柳泰光議員、副会長に佐藤多一議員、政調会長に豊田一雄が就いています。坂柳会長は、更なる議会改革に

取り組みながら「市民の代弁者としての役割」、「二元代表制の一翼を担う議会の役割」を十二分に発揮できるよう全員参加の会派活動をしていく、という方針を示しています。また、自民党豊橋市議団も分裂し、4月末現在の自民党系会派は、豊橋みらい(7名)、豊橋クラブ(7名)、春風会(5名)の3会派と無所属(5名)となっています。